

海外派遣研修助成事業による研修の成果

| | |
|---|--|
| 研 修 者 氏 名 | 近藤 勝弘 印 |
| 所 属 機 関 | 名古屋市立大学大学院医学研究科 附属病院 薬剤部 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・研修に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会・会議名 | American Society of Nephrology, Kidney Week 2019 Annual meeting |
| 渡 航 期 間 | 自 2019年11月6日 至 2019年11月12日 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・研 修 内 容 ・国際学会・会議内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 多発性骨髄腫患者における腫瘍崩壊症候群（TLS）のリスク因子探索に関する臨床研究のポスター発表 ・ シンポジウム、一般演題の聴講による最新知識の習得、ならびに海外他職種との協議や情報交換 |
| <p>2019年11月7日～11月10日に、米国ワシントンD.C. (Walter E. Washington Convention Center)で開催された米国腎臓学会総会 (American Society of Nephrology; ASN, Kidney Week 2019 Annual meeting) に参加させていただいた。本学会は、腎臓学の専門家 14,000人以上が集う世界的規模の学術大会である。また、腎臓学 Nephrology と腫瘍学 Oncology を融合させた「Onco-Nephrology」概念を提唱し体系化した学会としても知られている。</p> <p>私は、病院に勤務するがん専門薬剤師として日々の臨床業務に従事する傍ら、がん化学療法が腎機能に与える影響や、腎機能障害を有する患者への化学療法の施行に関する臨床研究を行ってきた。私が今回の学会に参加した主たる目的は、Onco-Nephrology セッションでの自身の臨床研究のポスター発表を行うことであった。演題名は「Effect of bortezomib and male sex on the risk for developing tumor lysis syndrome in patients with multiple myeloma: a retrospective study」で、多発性骨髄腫患者における腫瘍崩壊症候群（TLS）がテーマである。多発性骨髄腫としては比較的大規模な 200 例超を対象に、化学療法後の TLS 発症に係るリスク因子の探索を行っている。TLS は化学療法が奏功し腫瘍細胞が崩壊したことによって発症する有害事象で、時に急性腎障害を来して致命的となる。そのため、腫瘍学だけではなく腎臓学的視点を交えた検討が重要であると考え、本学会での発表を企図するに至った。私にとって海外学会での発表は今回が3度目であった。ポスター発表の2時間は大変緊張したが、拙い英語ながら聴講に訪れてくれた海外の腎臓内科医達とディスカッションすることができ、大変貴重かつ有意義な経験を積むことができた。また、Onco-Nephrology が一般演題のセッションの一つとして取り上げられたのは本年が初めてであった。その結果、同領域の演題や発表者へのアクセスが容易となったことで、最近のトレンドや本領域の盛り上がりをより強く感じる事ができ大きな刺激を受けることができた。今回の学会派遣によって得た知見や経験を今後の臨床活動に活かすとともに、患者さんにとって役に立つ研究やエビデンス創出に反映できるよう努力していく所存である。</p> | |